

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもの森うらここ（放課後等デイサービス）		公表日		令和8年 3月 23日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○	○	屋内、屋外に分かれたり仕切りを使い、活動の時間や場所を分ける工夫をしている。	中学生には狭いと感じている。また、運動には広さが不十分なので積極的に戸外活動を取り入れ、活動場所を分散させていく。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○	○	集団活動が主になる事が多いが、大人と1対1で対応できる時間をもつように心掛けている。	配置基準は満たされているが、感染症流行などによる職員の欠勤など、緊急時対応の検討が必要と感じる。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		1日の予定ボードを玄関、ホール中央の2カ所に設置している。室内の段差を減らすためクッションスロープを置いている。	部屋の中の物を減らし刺激を減らして安心して過ごせるよう心掛けていきたい。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日活動前と終了後に清掃、遊具の消毒を実施。利用児童に合わせ室内遊具、スイングの高さを変えている。	毎日、清掃、整理整頓を意識し、清潔で居心地よい場を維持していきたい。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		静養室、相談室なども整理整頓、パーティションも活用し、いつでも使用できるようにして個々のスペースを確保している。	相談室は来客対応にも使用するためそれぞれの利用時にすぐ部屋を使用できるよう声を掛け合う。児童だけの使用で目が行き届かない環境にならないよう、職員も入る、ドアを開けるなど安全に留意する。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		児童を見送った後に職員間で振り返りを行い情報共有、役割分担などについても確認している。	職員会議や日頃からの話し合いで、共通理解や業務負担が偏らないように努めていきたい。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		年1回のアンケートに協力してもらい、頂いた意見を集計・公表している。職員間で共有し、すぐに実践できるよう努めている。	結果を元に日々の振り返り、改善点を話し合い、より良いサービス内容になるよう考えていきたい。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎日、活動終了後に職員の振り返りをして、気になったことを共有、声を掛け合い業務改善につなげている。	今後も日頃より意見を出しやすい雰囲気づくりに努めていく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○	○	他の児童発達支援事業、医療機関のアドバイスを受けたり協議の機会を設け、運営や業務改善などについても検討、改善している。	これからも事業所内だけでなく外部のかたからの色々な情報や意見を取り入れて改善につなげていきたい。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		町内外で行われる研修の告知をうけ積極的に参加している。年1度、所内研修も実施。	今後も研修の機会を多く確保し積極的に参加して学びを深めていく。	

適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○	5領域などに沿ったプログラムを作成し、年1回ホームページに公開している。年度末に改めて各家庭に配布し周知している。	ホームページで公開している事を月1回のお便りに載せるなど周知していきたい。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○	保護者面談や相談、学校などの見学、個別懇談に参加し情報共有し保護者の意向、こどもの意向を受け、子どもの成長に合わせた計画を作成している。	一方的な計画になってしまわないよう、子ども自身の声を聞き、保護者と話し合いを重ね作成していくよう努める。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○	全職員で話し合いし、その都度、情報共有し理解を深めて意見を出し合い作成している。	最近の様子を共有し、その子にとってどんな支援が必要か、普段から話し合うよう心掛けていく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○	記録の閲覧や話し合いを通して共有し、日々の支援に活かせるようにしている。	誰が見ても、その時の状況が分かるような記録ができるように努めていく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○	個人ファイルを作成し、アセスメントや普段の生活の様子をすぐに確認できるようにしている。	今後も記録を読み込みファイルに閉じて、すぐ確認できるようにする。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○	一人ひとりに何が大切かを職員同士で話し合い、その為にどんな事が必要で何をしたら良いか話し合い計画書の支援内容へ繋げている。	今後も話し合いを重ね、より良い支援へ繋げていく事ができるよう努めていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○	週ごとに立案担当者を決めて、週案に沿って全職員で計画の見直し、準備をしている。	担当だけでなく、全職員でアイデアを出し合い、マンネリ化しないようにしていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	季節の行事や事業所独自の恒例行事を取り入れている。	固定化しないよう、週ごとに担当を決め季節の制作やゲーム、静と動の活動を組み合わせていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○	個々に合わせた計画を作成し、その日の状況に合わせた支援を行っている。各部屋や戶外活動を、ホールで集団活動もしている。	その時の状況や利用児童に合わせ、個別、集団で活動できるよう今後も臨機応変に対応していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	サービス開始前の打ち合わせでは、分からない事や確認事項はその都度話し合うようにしている。見学者来所時や新規利用者が慣れるまではいつも以上に丁寧な打ち合わせをしている。	今後も週案について会議を行ったり、毎朝ホワイトボードに書き出して丁寧に確認を続けていきたい。
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	シフトや送迎により、全職員で同時に振り返りができない日もあるが、日々気になることなど職員同士で声を掛け合い話し合っている。	今後も子どもたちの変化や良い所なども共有し合い、改善点についても話し合っていきたい。	

	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日誌、個人ファイルに毎日その日の様子を記録し、すぐに振り返る事ができるようになっている。	今後も、日誌その他を必ず確認し引き継ぎの漏れなく、その日の様子を話し合い改善につなげていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		半年毎に保護者とのモニタリングを行い、一人ひとりの状況に合わせて見直し、確認して頂いている。	今後も保護者との面談、話し合いを重ねて一人ひとりに合った支援計画を作成していく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	○		月1回の外部講師による臨床美術や地域活動(田植え、稲かり等)参加など、地域の協力を得ながら創作や余暇活動を行っている。	地域での活動をもっと取り入れていきたい。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		活動内容を複数用意し、子どもの意見に耳を傾け選択できるようにしている。メインメニューと個人メニューを設定している。選択しやすいような可視化をしている。	今後も複数の選択肢を提案しながら、子ども目線で分かりやすく選択できるような環境を工夫していく。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		現在の様子について全職員が情報共有してから児発管又は支援担当職員が対応するようにしている。	今後も関係機関との会議前に職員間で、その子の様子を話し合い情報共有に努めていく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		電話連絡の他、会議に参加、行事見学を通して様々な関係機関とつながり、やり取りしやすい体制になっている。	幼保、小中高とは常に連携できるような体制を強化していきたい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		下校時や災害があった場合にも速やかに学校へ連絡し、連携を取っている。手紙や電話、送迎時にも口頭で確認し情報共有している	普段から会話を重ね、やり取りしやすい体制づくりを心掛けていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		幼保から就学への引継ぎ援助、学校見学の引率など必要に応じ行っている。電話や会議を通し入学後の様子も情報共有している。	今後も関係機関との連携、情報共有に努めていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○	○	移行先が決まっていない場合は相談支援事業所に情報共有している。転居し管外の事業所を利用する場合も支援内容や児童の育ちについて添書やzoom面談など情報提供してきた。	そのような状況の時は、困らないようにその子のために出来る事を全てしてあげたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		センター的役割を担う町の子育て医療課主催の研修会に参加しアドバイスを頂いている。毎月、東部3町の専門支援派遣事業によりOT,ST,心理士の訪問時に助言を頂いている。	今後も沢山の方から色々な知識やアドバイスを頂けるように関係機関と連携を取っていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○	○	散歩中に近所の子どもたちと会い挨拶をしたり、図書館や体育館など公共施設や法人内の施設を利用し自然に会う機会をもっている。こどものボランティア活動に参加する場面で他の児童との交流がある。	設定はしていないが、出かけた先で一緒に活動することがあるため、今後も意識して行動していきたい。

	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	○		町内の特別支援連携協議会や児童発達支援施設連携協議会、近隣の自立支援協議会子ども部会の他、地域の子育て応援に関わる定例会などにも積極的に参加している。	今後も積極的に参加して、地域、行政とともに子どもの育ちを応援していきたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		より良い支援に繋がるよう、定期的な所内相談の他、送迎時や電話などでこまめに伝え合うようにしている。	連絡ノートや電話で気になった様子や嬉しかったことなども伝えるよう心掛けていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		町の研修会などチラシを配り、必要と考える家庭へ個別にお知らせや直接お誘いする事もある。希望により委託専門支援員に相談の機会を設けている。	引き続き委託専門支援員の相談の機会や研修会の告知を行い、広く参加を促していく。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に丁寧に説明をしている。	各職員が内容をよく理解し、いつでも質問に受け答えできるよう心掛けていきたい。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		定期的な所内相談だけでなく、保護者の希望により面談を行い、意向やお気持ちを聞かせて頂く機会を設けている。	今後も、日頃から子どもたちの希望や気持ちを聞いていきたい。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		保護者と話し合い計画を見直して、説明・確認後に同意をして頂いている。	引き続き丁寧な説明を心掛けていきたい。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		相談をうける時ははやめの対応を心掛けている。所内相談、日々の送迎や電話でも相談を受け必要に応じ委託専門支援員への相談に繋がったり学校のケース会議にも参加している。	定期的な所内相談の他、いつでも相談ができる環境・体制を整えていく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		保護者会は毎月開催し家事や育児、趣味などについて話し、保護者同士の交流も生まれている。	きょうだいの交流についても考えていきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情相談窓口や第三者委員、意見箱を設置している。その日のうちに職員間で話し合い対応するようにしている。	直ぐに対応できるよう、職員間での情報共有、連携を取っていきたい。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月お便りを発行し、HPで活動の様子や予定のお知らせなどにも活用している。	今後もお便りやHPで活動の様子をお伝えしていく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		利用者情報は口外せず、書類は鍵のかかる書庫に保管し持ち出さない事を徹底していく	今後も個人情報の取り扱いには十分気を付けていく。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		絵カードを用意する等、可視化に努めている。分かりやすい言葉ではっきり話す、見て分かるように心掛け、個別にお手紙や電話で再確認するようにしている。	連絡ノートや行事ごとのメモ、スケジュールを作成し、分かりやすく伝えられるように心掛けていく。

	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	○	イベントへ参加、お便り配布の他、キッチンカーに来てもらったり、他の障がい者福祉施設と共に案山子づくりをした。	今後も積極的に地域の行事に参加していきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアルを作成し、年1回所内研修で確認している。年2回、災害などを想定した避難訓練をしている。	各種マニュアルを確認し、すぐに動けるようにしていきたい。防犯の訓練もしていきたい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPを作成し、年2回避難訓練を実施、避難場所の確認、訓練を行っている。	いつ起こるか分からない災害の為に、日ごろから避難、安全確保を想定し行動していきたい。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		保護者からの情報共有、確認している。診断書や検査結果のコピーを頂き様子や対応方法を聞き取り注意点に配慮している。	今後も情報共有、確認をしっかりと行って安心安全に過ごす事ができるようにしていく。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		保護者からの情報を共有し確認を行っている。おやつ提供時に十分注意し代替えの物を用意するようにしている。	職員間で声を掛け合い、情報共有を徹底し安全を確保していく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		年1回の職員研修を行い自然活動や日々の安全について話し合っている。年2回の避難訓練、清掃時に遊具の点検をしている。	積極的に研修会に参加し引き続き安全管理に努めていきたい。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		必要に応じ、モニタリングや面談など来所時に伝えている。緊急連絡先を伺いすぐに連絡が取れるようにしている。	今後も、ご家庭と連携をはかる事ができるよう普段からの関わりを大切にしていきたい。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		事例についてすぐに職員会議を行い、改善点を検討するなど話し合いをしている。	振り返りの時間や日々の話し合いを重ね、再発防止に努めていく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		マニュアルを作成し、年1回所内研修を実施。作成したマニュアルを常に目にする所に掲示している。年1回外部の研修会にも職員が順に参加できるようにしている。	外部研修を積極的に受講し、他の職員へも学んだことを共有していきたい。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		本人の危険を回避する事以外に身体拘束にあたる対応をする事はないが、個別支援計画を確認して頂く時に保護者と相談している。	普段の様子や状況、職員の対応について細かく保護者にお伝えしていく事で互いに安心して利用していただきたい。	